

# 伝えたい感謝の気持ち



東京都 早稲田大学高等学院中学部 1年

田中 秀和

第5回日本語大賞 中学生の部 文部科学大臣賞 受賞作品

伝えたい感謝の気持ち

東京都 早稲田大学高等学院中学部 一年 田中 秀和（たなか・ひでかず）

僕は小学校四年生の夏から六年生の夏までの二年間、シンガポールに住んでいた。生まれて初めての海外生活だったので、日本での生活とは色々違う事があったり、言葉の壁があったりと、初めは戸惑った。僕にとって英語が何よりも不安だった。

来星してしばらくして、家族で夕食をした時に、レストランの店員に「日本人は食事を始める時に何か挨拶をするが、何と言っているのか。英語では何と言うのか。」と聞かれた。「食事を始める時には『いただきます』と食事を作ってくれた人や食材を育ててくれた人、自然の恵みに感謝する言葉を言い、食事を終えた時には『ご馳走様でした』と、また感謝の言葉を言う。」と答えた。しかし、そう言えば、英語では何と言うのだろう、と考えたが、その時は思いつかなかった。海外のドラマでは手を合わせて「アーメン」と言うてから食べ始めるのも見かけたが、実際レストランでは見かけない。

小学校五年生の時、僕は学級委員だった。日本人学校に通っていたが、しばしば現地校との交流があり、現地校の生徒とお弁当と一緒に食べた時に、みんなの前に立ち「いただきます。」と挨拶をしたら、何それという目で見られ、現地校の生徒はシーンという感じだった。

後日、インターナショナルスクールに通っている友達に、「食事の時の挨拶は何と言うの。」と聞いたが、「ない。」と言われて、困った。そして、不思議にも思った。僕達日本人にとっては、言葉を話し始めたら、まず一番に親から教わる言葉といっても過言ではない大切な言葉なのに。生活文化が違うから仕方がないのか。

しかし、他の命を頂くという感謝の気持ちを表す「いただきます」、走り回って食材を用意してくれた人への「ご馳走様」。日本人にとっては当たり前前の事だし、この言葉を言わずに食事を始めるのは気持ちが悪い。

「いただきます」と「ご馳走様」は感謝を伝える言葉だから、外国にもないといけないと思うし、作つたらいいと思う。

Let's eat! Eat together! なごをもっと厳かな感謝の気持ちを表す言葉だ。

外国に住んでみて、初めてこうして日本にしかない美しい言葉があることに気付かされ、改めて、「いただきます」と「ご馳走様」の深い意味を知る良い機会に恵まれた。そして、毎食前、毎食後に感謝の気持ちを表す言葉を発しているという日本人として、何とも誇らしい気持ちにもなった。

家やレストランでは、食事を作ってくれた母やシェフや板前さんが目の前にいる。だから、「いただきます」という言葉も自然と出てくるが、学校でお弁当を食べる時や、売店のパンを食べる時なども同じように、作ってくれた母や、その食材を育ててくれた目の前にいない人達にも心から感謝して、自然と「いただきます」が言えるようでありたい。今も、大人になっても、そして子供が生まれたら子供にも伝えていき、美しい日本語を守っていききたいと思う。